

住みやすく心地の良い住宅は、そこに住む人のライフスタイルが整理された間取りや、好みのデザインに囲まれた住宅である事だと思っています。しかし建築には限界があり、住宅が全ての機能を満足させる事は不可能であるとも思っている。多様なライフスタイルにフィットできるような、フレキシブルな設計を心がけています。

つまり、全てをガチガチに決めて間取りをつくるのではなく、少しでも余白部分を設け、その余白を埋める事が住人にとっての価値に繋がるといふ事です。

あくまで、余白を埋めるのは住人なのです。

極端な事を言うと、住人にとってどんなに機能的で良いデザインの家であっても、住人が余白を埋める事ができていなければ、その価値に気づかないでしょうし、その逆で、住人にとって不都合な部分（余白）が多い住宅であったとしても、ちゃんとその部分を埋める事ができているのであれば、とても価値のある住宅になるという事です。

僕はこれまでに、たとえ賃貸住宅であったとしても、センス良く快適に生活している人を何人も見てきましたし、それなりに愛着を持って住まいと向き合っている現状も見てきました。

余白を埋めるコツは、住みやすく快適に過ごすためのルールづくりをする事だと思えます。

家族の中での役割分担や決まり事を設ける事で、建築の行き届かなかった機能部分を補ったり、デザインをグレードアップすることができると思えます。

暮らしのルール。 zuiun便り Vol.31

心地よいインテリアは、整理整頓された空間であるという事を前提としている場合、そのさじ加減にもルールづくりが必要ですよ。

僕の場合、無機質なショールームやモデルハウスのような空間はリラックスする環境にはならないので、ある程度生活感のあるインテリアがいいと思っています。また生活感が入って一つのデザインになるような住宅が素敵だとも思っている。なるべく生活臭がする雑貨や小物が置かれていても違和感を感じない素材や色合いでインテリアを構成したいとも思っています。

生活感が出すぎるのは好きではないので、ある程度は隠す事ができて、整理の行き届いた緊張感みたいなものはあったほうがいいと思います。例えば、壁はマットな白で、床とダイニングテーブルはオークやウォルナットなどの無垢材にします。壁には同じ素材で額装された絵かポスターが一つだけかかっているとといった感じです。そして大小の観葉植物がちりばめられていければ、部屋の色合いがグッとリラックスできる空間になります。

しかし、実際はその状態をキープする事は難しいのです。その為に家族全員の共通意識としてのルール作りが必要なのです。ダイニングテーブルに置かれた醤油差や調味料入れはちゃんと片づける事や、気づいた人がテーブルを拭く事と、毎週土曜日の朝は入念に掃除機をかける事。洗う物は自分で洗濯機の間所までもっていかないと永遠に洗濯されることがない事など・・・

ルールを守る事で得られる快適な生活は、建築に命を吹き込む大切な儀式なのかもしれません。